

現代史特集 日本の性産業と見えない当事者

インタビュー 「買春者」とは誰なのか

# 奴隷にさせていただくということ

M男性ひじき

聞き手：小西 真理子

まえがき

凡例

SMクラブの遍歴

エリナ女王様との奴隷契約

女王様のご褒美

SMクラブの女王様とプライベートの SM

自分はモノである

捨てられた野良奴隷

野良奴隷から奴隷へ

【対談から 4 年後】

奴隷のモラル

マゾヒストと SM プレイ

## まえがき

本稿は SM クラブでエリナ女王様に出会い、彼女の奴隷となったひじきさんとのインタビュー対談である。ひじきさんは 40 代の男性マゾヒストである。このインタビューは、SM 研究との関連で個人的に知り合ったエリナ女王様に、彼女の奴隷であるひじきさんを紹介してもらう形で実現した。

インタビューは、2021 年 6 月 29 日、7 月 27 日（両日とも約 2 時間）、10 月 6 日（約 1 時間）の計 3 回、大阪大学豊中キャンパスにある私の個人研究室にて行った。それぞれのインタビュー内容の重要な部分を、ひとつの対談として成形しなおしてまとめ、その内容をひじきさんにも確認していただいた。その後、2025 年 7 月 8 日（約 1 時間半）、同じく私の個

人研究室にて追跡調査を行った。その内容を元に、もともとの対談に肉付けしたことに加え、【対談から4年後】以降を新たに加筆した<sup>1</sup>。

凡例

—：小西発言

## SMクラブの遍歴

—SMに興味をもったきっかけを教えてください。

SMというジャンルに触れるきっかけとなったのは、大学に入って一人暮らしをはじめたことでしたね。オナニーを気兼ねなくできる環境を手に入れて、田舎に暮らしていたときは手に入りやすかったオカズ用の様々なジャンルの媒体が、その辺にたくさん売っている状況になったんです。そのなかで手にするようになったのがM男向けのポルノでした。でも、当初の興味としては、SM要素は薄かったですね。普通のセックスも経験がなかったので。アブノーマルな世界っていうのは、興味はあるけどファンタジーというか、現実とは違う世界かなと思っていました。

—すぐにSMというジャンルに興味をもたれたというわけではなかったんですね。風俗利用についても、SM以外のところからはじめられたんでしょうか。

はじめて風俗に行ったのは、大学を卒業して、社会人2年目になってからですね。勤務地が今まで住んでいた環境よりも風俗店が身近にある町だったこともあって、興味をもちはじめました。そのときはピンポイントでSMクラブに行きたいと思ったわけではないんですけど、コンビニで購入した風俗情報誌を見て一番はじめに行った風俗店は、たまたまSMクラブでした。当時はまだ女性とお付き合いしたことがなかったので、もしかしたらキスとかセックスは好きな女性とするものだという夢見がちなところがあって、それとは違うプレイができるということでSMを選んだのかもしれないです。はじめてSMクラブに行ったときは、特に指名をしたわけではなく、フリー〔指名なし〕で入った女王様とプレイしました。それから月に1~2回程度、転勤で通えなくなるまで、その女王様を指名して通いまし

---

<sup>1</sup> 本研究は、大阪大学人文学研究科および文学部・外国学部が「人間を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集又は採取して行う研究」に対して行う研究倫理審査を受け、承認されたものである。

た。

—どんなプレイをされていたんですか。その女王様には、希望のプレイを伝えられていたんですか。お任せだったんですか。

細かいリクエストはしていなかったんですけど、プレイの要望として、女王様に触れたい、放置プレイはしないでほしい、最後は膝枕をしていただいて射精したいといったことは伝えていました。嫌なこともマゾヒストだからやってみるという可能性もあったと思うんですけど、指名していた女王様は優しい方だったので嫌なことはしないでくださる方でした。でも、その女王様とのプレイでがっかりした経験もありました。別の女性がプレイ中にやってくる乱入プレイをしてみないかと女王様に提案していただいたことがあったんです。そのときはとても冷めてしまいましたね。その女王様は、はじめて行った SM クラブで、はじめてお相手して下さった方で、その後も通っていてっていう方だったんで。当時それなりにお慕っていた女王様とせっかく SM という非現実的な世界を二人で共有できていると思っていたのに、途中で他の人に入ってきてほしくなかったなと思ったんです。

—その女王様のところに通われていて、特別な人だと思われていたんですね。当時はずっとその女王様だけを指名されていたんですか。

SM クラブに通うようになったあと、ヘルスとか他の風俗店にも行くようになりました。ただセックスの経験がなかったので、正直こわかったです。いい格好をしたいところがあって。長い時間のコースの方が女性に喜ばれるので、風俗店に行くときは 90 分とか 120 分とか長いコースで入ることが多かったですね。SM クラブでも長いコースで入っていましたね。経験はなくてあまり上手くはないかもしれないけど、長い時間入ってくれる金払いのいい良いお客さんだと思ってもらいたかったのかもしれないです。でも、長い時間入るとなると、女性だけにやってもらうとなったら間がもたなくなりますよね。自分の番がきてしまう。それはちょっと重荷でした。女性に触りたい気持ちが大きくなったらヘルスとかに行って、女性の方が主導に動いてくれてそちらの方が気持ち的にも楽だとなったら SM クラブに行っていました。

僕がしたいことのリクエストではなくて、女王様がされたいこと、たとえば、「今日ちょっと縄の練習をしたいから」とか、「スパンキングをしたいから」とっていうことで、女王様がしたいことをやれたらいいなと思って、ある程度そういうようなプレイをしていただけたかなっていうふうには思っています。もともと SM クラブに行っていたときから射精をそんなに重要だと思っていなかったんですけど、自分が気持ちよくなるとか射精することではなくて、女王様が 90 分なり 120 分なり SM できて楽しかった、おもしろかったって思ってもらえたら一番うれしいなっていう気持ちでプレイをしていましたね。

## エリナ女王様との奴隷契約

—当時から、女王様に楽しいって思ってもらうことを重視されていたんですね。エリナ女王様と出会ったのは、転勤された次の土地ということでしょうか。

次の転勤先では、他の風俗店には通っていたんですけど、なんとなく SM クラブには通いませんでした。その会社を退職して、実家にいったん帰って再就職しました。実家に帰ったころはしばらく風俗には行っていなかったんですけど、ネットで検索してその地域にも SM クラブがあるということがわかって、久しぶりに SM クラブに行きました。そのときもフリーで入ったんですけど、そのときの女王様がエリナ女王様でした。

—運命の出会いですね。エリナ女王様にはじめて会ったときはどんな印象だったんですか。

今にすると大変失礼なお話なんですけど、第一印象は、「わ、めっちゃかわいい、こんな子とやらしいことできるんや、やったー」というのが正直なところでした。うまく説明できるかわかんないんですけど、最初は「かわいい子に当たった、やったー」というところだったんです。プレイもそんなに経験を積んでいたわけではないし、ブランクもあったので、初心者向けの、縛って、鞭を打って、蝋燭垂らして、お尻責めてみたいな内容で、特別すごいなんか気持ちよくなったとか、特別なことしたっていうのではなかったと思うんです。

ただ、その帰り、電車のなかでぐらいなんですけど、すごく申し訳なくなったんですね。あの、何がって言われると具体的にはよくわからないんです。はっきりとした形で、自分には見えていないんですけど、まず、お詫びをしたいっていう気持ちになったんです。すごく自分勝手というか、なんかつまらない思いをさせたんじゃないかなって思っただけでも、気の迷いって言ったら変ですけど、久しぶりにそういう変態行為をして、ちょっと気持ちがふわふわしているからなのかなと思ったんです。でも、翌日、翌々日と、何がとは言えないけど、お会いしてお詫びをしたいっていう気持ちがどんどん大きくなって行って、最初にお会いしてから 3 日目ぐらいに改めて指名でお会いしました。そういう気持ちになっていることをお伝えして、「このあいだは申し訳ありませんでした。とにかくお会いをしたくて今日はおかいました」とお話ししました。

—他の SM クラブでは、そういう意味でお詫びしたいと思ったことはなかったんですか。

SM でなければ、もしかしたら恋をしたとか、そういう感覚に近いのかもしれないです。あの人が好き、こういうところが好きっていうのは、なかなかうまく表現できないパターンもあると思うんですね。なのでそういうところに近いと思うんですけど、好きだっていう気持ちよりも頭を下げてお詫びをしたいっていう気持ちになったっていうのは、マゾヒストだ



お客さん、私を指名していいよということを許可していただいたという意味で使っていました。でも、奴隷契約をしていただけていたということがわかった今は、「お客さん」からエリナ女王様の「所有物」になっていきたい、あり続けたいと思う感じに変化しました。

## 女王様のご褒美

—エリナ女王様とはどんなプレイをされていたんですか。

エリナ女王様に奴隷にさせていただいてからは、月 1 くらいのペースで通うようになりました。エリナ女王様とプレイをするときは、自分がしたいことをリクエストするのではなく、女王様がされたいことをしていただくことに喜びを感じていたので、そういうプレイをしていました。エリナ女王様は鞭が好きの方だったので、鞭打ちはよくしていました。よくマゾヒストは痛みが快樂になる人たちだとひとくくりに考えている人がいるけど、僕の場合は、痛みが快樂になるようなことはないです。でも、エリナ女王様が鞭打ちをして、それが楽しいって思ってもらえるのであれば、それがうれしいんです。

鞭で太ももの裏を叩かれてすごく痛いのを耐えていたとき、エリナ女王様が「私のためなら耐えられるわよね」とおっしゃったことがあったんです。女王様の鞭を受けたのはそのときがはじめてだったわけではなかったんですけど、「あっ、女王様のためだ。この方のためだ。この方が楽しくて打っておられるから、自分はじゃあそれを受け入れるよね」と思いました。そのとき、自分が鞭に耐える理由が見つかったんです。SM だから鞭に打たれるんじゃないくて、女王様が楽しくなるために鞭を受けているんだということが身にしみてわかったんです。鞭を打たれてすごく痛い、やめていただけるならここでやめていただきたいということはこちらからは言えないけど、ものすごく痛いんだけど、もう一発受けたほうがもっと喜んでいただけるかもしれないって思うと、それだったら「やめてください」よりも「もう一発」というのが続くという感じです。もしかしたらキリのいい数字まで行こうと思っておられるかもしれないけど、そうだとしたらそこまでは耐えなくちゃいけないと思うし、次思いっきり打とうと思っているときに「おやめください」って言うしまうと「次楽しみにしていたのに」ということになるかもしれないですよ。自分ができることは、とにかく受けること、楽しんでおられるなら続けてもらうことだというふうになっていたと思います。

—ちなみに、ひじきさんにとってのご褒美の位置づけってどういう感じですか。

自分にとってご褒美は「あー、楽しかった！」とか言っていただけたら、やっぱりうれしいですね。自分の価値は、エリナ女王様が楽しいと思うかどうかによって決まりますね。自分で自分に価値を見いだせる人もいると思うけど、自分はそうではないんです。自分自身が価

値のあると思う方、そのすばらしい方を楽しませることができ、楽しむことに使ってもらえたら、自分にもその方を楽しませるだけの価値はあると思うということです。

いくつかうれしかった出来事があるんです。エリナ女王様とプレイしていて、「延長できるか」と聞かれたことがあったんです。もちろんお金はこちらが払うんですけど、こちらからお店に行っただけでは会えないなかで、そのプレイを女王様に楽しんでもらって、もうちょっといっしょにプレイしようと誘ってもらえたことは、ご褒美でした。

あと、集団調教〔複数の女王様と複数のマゾヒストが集まって集団で調教プレイを行う〕っていうイベントがあって、その件を女王様がブログに書かれていて、そこに「マイ奴隷のひじきが」と書いていただけたことがあったんです。二人だけのプレイのあいだで、「あなたは私の奴隷でしょ」「あなたは私の女王様です」ということじゃなくって、他の人の見えるところで、自分の奴隷だっておっしゃっていただけたんです。僕が女王様をお慕いしているっていうことではなくて、女王様が「こいつ、私の奴隷だよ」と言ってくれたことがすごくうれしかったです。

—でも、前の女王様とのプレイでは、乱入プレイで冷めてしまったんですよね。エリナ女王様だと、複数人でもプレイできてうれしいということですか。

この集団調教はエリナ女王様や他の女王様たちが自分を使って楽しむためのプレイだったので、女王様に楽しんでいただきたいという自分の性癖とマッチしたんじゃないかと思います。乱入プレイのときは、自分と女王様の世界があって、自分が気持ちよくなりたいんだというのが先行していて、自分の理想が崩れたから冷めたんです。

エリナ女王様に対する自分の立ち位置を「奴隷」だとすると、前の女王様と乱入プレイをしているとき、自分は「奴隷」ではなく「M男性のお客さん」だった。女性から責められるのが好きだという「M男性」という枠があって、そのなかに「奴隷」という存在があります。自分のなかの「奴隷」とは何なのかと考えたときに、誰が楽しいことが優先されるのかということが重要となってきます。乱入プレイを楽しいか楽しくないか選んでいる時点で、そのときの自分は「奴隷」ではありませんでした。女王様に楽しんでいただけるのであれば、自分がそれを好きかどうかはあまり関係ないのが「奴隷」です。「奴隷」とは、女王様が何をしたいかということ優先して考えられている人、もっとつきつめていったら自然とそれができる人だと思います。自分はもともと、風俗店で射精することにそんなにこだわらないタイプなんですけど、エリナ女王様とプレイをするようになってからは、自分が気持ちよくなるとか射精するということは、もっとどうでもいいことになりました。

でも、ご褒美にかんして、一度だけ射精をさせていただいたことがあるんですけど。「吊り〔縄や専用の器具を使って、相手を宙吊りにするプレイ〕をしたい、吊り下げるプレイをしたい、だからやろうね」とおっしゃっていただいて、当日器具が壊れてしまってできなかったことがあったんです。それもやりはじめる前に気づいたわけではなくて、実際にちょっと

吊って、僕が手を後ろで縛って吊られた状態で器具が壊れて、ドンと落ちたんですね。たぶん、端で見てたら大した高さではなかったと思うんですけど、自分としては、そのままドンと落ちるしかなくて、すごくこわかったんですね。そういう様子をご覧になられて、「今日はもういいよ」っていうことでベッドに横になって、手でしごいてくださったんですね。本当にすごく気持ちよくて、それまでもそうだし、今までも射精したなかで一番気持ちよかったですね。「あー、気持ちよかった。ご褒美を受けた」っていうのが普通の方なのかなと思うんですけど、僕のなかには、もう限りなく気持ちよかった、うれしかったが 100 に近いんですけど、どこか違和感というか、喜ぶのは違うんじゃないかっていうのがあって、それを考えて、こういうことかな、自分の心にあるのがこういうことかなって思ったのが、女王様にお詫びをさせてしまった、ご褒美ではなくて、お詫びをさせてしまったのかなと。

「こわい想いをさせたから、射精させて気持ちよく今日はさせてあげよう」って、優しさだと思えます。いわゆるご褒美の範囲だとは思いますが、女王様が吊りを楽しむべき、はずだった機会に、お詫びの感情を持たせてしまったっていうのがすごく申し訳なくて、それはお伝えはしてなかったんですけど、今でも、申し訳ないなって思っています。気持ちいいのは本当に気持ちよかったです。イクってこういうことなんだなっていう感じだったんですけど、そこに罰とご褒美とかが SM の世界かなっていうなかでお詫びをさせてしまったっていうのが、すごく申し訳なかったなっていうふうに思っています。うれしかったことでもあるんですけど、あの、女王様の手でイカせてもらえたっていうのはすごくうれしかったことではあるんですが、ほんのちょっと、割合でいうとほんのちょっとなんですけど、忘れられない感覚として、女王様にお詫びをさせてしまったっていうのがすごく引っかかっています。

あとは満足させようっていう手段に、射精を選ばれた。気持ちよかったって言っている立場でこう言うのもすごく矛盾があるとは思いますが、〔奴隷ではなく〕男として見られた、お客さんとして見られたっていうのは、少しショックだったかもしれないです。自分は客だっていうのは、頭ではもちろんわかっているんです。プライベートでおつき合いしたい、プライベートで SM の関係を築きたいっていうのではもちろんないんですけど。ただ「奴隷にしてあげる」っておっしゃったときとかに、これでこっちの妄想の世界では、妄想の世界というか、女王様のことを想うことによってプレイの時間以外でも奴隷でいられるっていう感覚はあるんですけど。別に常識として、お店の女王様なんだからお金を払わないとプレイできないよねっていうのは、十分わかっているんです。で、性風俗店なんて、お客さんへのサービスとして射精だったりっていうのはあるとは思いますが。そう見てほしくなかったって言ったらちょっと傲慢かなって思っています。そういうわけでは、上手く割合が説明できないところがあるんですけども。「あ、他のお客さんといっしょか」っていうのは少し寂しかったかもしれないです。

—その話に関して、エリナ女王様から聞いたことがあります。ひじきさんが吊りから落ち

たとき「こわかった」と言われたので、それを聞いたエリナ女王様の罪悪感はかなり刺激されたそうです。エリナ女王様に言わせると、吊りから落ちたとき、ひじきさんは奴隷であることをやめて男性のお客さんになったのではないかということでした。だから、エリナ女王様はこのとき、女王様であることを降りられたのです。ひじきさんは、奴隷にはなりきれていなかったのではないかとされていました。

おっしゃるとおりなのかなと思います。「こわかった？ どうだった？」と聞かれて「こわかった、こわかったです」とお答えするのはいいと思うんですけど、自発的に自分が「こう思いました」って言うのは違う。たぶん、自分の話ぶりだとか表情だとかに「もうやめてください」っていうのがあったのかなと思います。それをご覧になられて、もうできないなというか、奴隷然とした扱いをもう望んでいないのかなというふうに受け取られたのかなと思います。

そこに罪悪感を抱かせてしまった。それ自体が自分としては後悔でもあるんですけど、それに対しての行動ということで、女王様と奴隷の関係ではなくて、性風俗の自分とお客さんっていう関係にそのときになってしまったのかなと思います。そのときはやっぱり気持ちよかったというのが勝っていましたし、その後も基本的にはすごく気持ちいい射精をしたっていう認識ではあるんですけど、そう思うことにどこか漠然とした後ろめたい気持ちというか申し訳なきみたいなものがあって、それが何かなっていうのを今回のこういう機会を得たときに、こういうことだったのかなと自分なりに考えました。

## SMクラブの女王様とプライベートのSM

—エリナ女王様とひじきさんは、女王様と奴隷の関係ですけど、状況としては、SMクラブの女王様とお客さんというところもどうしてもありますよね。性風俗・SMクラブの女王様と、プライベートのSMの女王様との違いはあると思いますか。

どんなに女王様と奴隷の関係だと思っけていても、エリナ女王様はお店の女王様だから、お店に行ってお会いできる方だと思っけていました。もしプライベートでということを出したら、今お会いできることももうダメになるかもしれない。ちゃんとプレイの料金を払って、ちゃんと会いに来る。お客さんの入り口を通ってくるけど、女王様のやりたいことができるから「こいつといると楽しい」と思っけていただけたらうれしいんです。

客扱い、男扱いされたことが残念だったという話をしましたけど、それでも客だと思っけることをしてしまっけたことは自分の落ち度であると思っけています。でも、お店に通っけていたときは、お客さんとしてではなく、奴隷として女王様に会いに行っけていました。お店でしか会えない方だから、お店を通っけて女王様に会いに行くという方法をとっけていたんです。

—エリナ女王様が SM クラブの女王様であったことに、何か意味はありましたか。

エリナ女王様が SM クラブにいらっしゃったということはすごく幸運だったと思います。スムーズに SM の関係に入れたので。たとえば、そうでない関係で何かしら出会って、エリナ女王様が上司だったり逆に部下だったりしたり、別の関係でもそうですけど、そうなったときに自分の対人スキルでは、そういう深い関係にはなれなかったと思います。「性癖ドンピシャのすごくかわいい女の子いるやん」って思ってそれでオナニーにふけるということだったかもしれません。これは自分の方の能力不足だと思います。恋人とも SM をできる人もいると思うので。

自分がそもそも女性にアプローチをかけるということが、男女の仲だけでなく、シンプルに仲良くなるとか、対女性だけじゃなく男性に対してもあまり上手に人づき合いする方では決してないので、そういう関係で出会わなければ、今のエリナ女王様との関係ができなかったらと思うんですけど、まあ、どんな関係で出会っていたとしても、そうなれていたらうれしいなとは思いますが。お店にいたときもこちらから連絡をするのははばかられていたけど、予約することはできました。

あとは、お店の方なんだから会ってもらえるんだよ、恋人ではないんだよという、いいブレーキになったと思います。お会いしに行きやすいっていうところと、会えるのはお店の女王様だからだよっていう自制する気持ちがありました。プライベートの関係の SM ではないので、サービスを受けている時間と、普通の人である時間というのが、ちゃんとわけやすいということで、緩みかけたネジをキュッと締めてもらえていたのかなというふうには思います。

—プライベート SM についてどう思いますか。

夢があるなとは思いますが。お互い好き同士でいられるなかで、好きな SM ができて、関係を継続できるのであればいいのかな、そういう幸せな人もいるのかなと思います。今、SM プレイするとなったらエリナ女王様と無関係では考えられないので、そう考えると、エリナ女王様とプライベートで SM をする関係になるのかってなると、本当にもうファンタジーの世界の話になるかなと思います。

もしお店に通っていたときに、「実はちょっと気に入っちゃって、私のプライベートの奴隷になる？」って言われて、じゃあその条件として、最初ちょっと小さなハードルを出されて、それをどうこうしているうちに、取り返しがつかないところでも「はい」って言っていた可能性は、より危険度がプライベートの関係のほうが高かったのかなと思います。想像の話ですけど。

—エリナ女王様とは、プライベートでお会いしたことはないんですか。

お店の外で2回ほどお会いしたことがありました。お食事に1回、プレイの一環としてのお買い物に1回行ったことがあります。お食事はエリナ女王様に誘っていただいて、プライベートで行きました。なぜ誘われたのかはわかりません。話したいことがあったのか、暇だったのか、何かためされていたのか。ちゃんとしたお店に行って、普通の会話をしました。気持ちとしてはエリナ女王様に楽しんでもらいたいということで、事前にどのお店に行こうか考えるということは楽しかったけど、ただ緊張していたのでほとんど頷くことしかできませんでした。食事もお酒もおいしかったけど、きっと楽しくないと思われたと思います。お買い物に行ったのは、エリナ女王様のブログに「年末忙しくて買い物に行く時間がない」と書いてあったのを見たのがきっかけでした。「お時間がないでしたら、私とプレイする時間をその買い物に当てられたらどうですか。プレゼントさせていただきます」と言ったら、「じゃあ、そうしよう」ということになりました。そのとき、エリナ女王様からマフラーをいただいたんです。そのマフラーは今でも使っています。

—そのマフラーは、買い物に行く時間を作ってくれたご褒美かもしれないですね。そのご褒美に、悪いなっていう気持ちにはならなかったんですか。

マフラーをいただいてしまったという罪悪感みたいなものはありませんでした。むしろ、SM関係を目に見える形に残せたということ、それを自分の手元に置いておけるということがうれしかったです。しかも、他の人にとってそのマフラーは単なるマフラーなので、それで何かがバレるわけでもないですよ。

買い物に行ったあとに、エリナ女王様に「奉仕精神にあふれるひじき」という言葉で、その日のことをブログに書いていただけたこともうれしかったです。お店でのSMの奉仕というのは、女王様に対して性的な快楽を与えることなのだと思うけど、そういう文脈を離れて、でも、SM関係のなかで、奉仕という言葉を自分に関する表現として使っていただけたことがうれしかったです。

ATMプレイとかだと、お金を出す機能をこの奴隷には認めてあげるよということになるのかなと思うので、自分の機能を何かしら使って、エリナ女王様が楽しく過ごしていただけたらうれしい。そういう意味でモノであればいいかなと思うので。愛情がいらぬとは言わないけど、愛情を求めてはいけないのかなと思ったりするんです。「僕が一番いい奴隷だと言ってください」というのをこっちから言ったらダメだと思うんです。「おまえが一番だよ」という権利は女王様にはあるんですけど、奴隷の側からは言うてはいけません。合格不合格ですかっていうのは、女王様が順位づけとかいい奴隷かどうかを決めることであって、自分たちはそれを目指して努力はするべきだけど、女王様に問うてはいけないと思います。雑に扱うことが楽しいのであれば、それが僕もうれしいんです。

## 自分はモノである

—ひじきさんのモノとしての機能は、どんな感じなんですか。

鞭を打つときの的であったりしたかもしれない。かかしを打っていても楽しくないと思うんで、おもしろく反応する的であったらよかったな。そういうふう楽しんでもらえたら。それが「私は人間を打つから楽しいんだよ」っていうことになれば、的ではなく人間であったと思いますし、「いやおまえは人間なんかじゃないよ」ってことだったら、的でいい。買い物プレイをしたときは、お財布係だったでしょうし。平たく言うと奢るということなんですけど、SMプレイとしてプレイ料金を払って時間をとってお買い物されるものの代金を自分がお支払いする。女王様のお財布になったんだとしたら、じゃあ、うれしいよねって思います。はたから見たらただ奢ってあげているというか、男性がお金を出すって、それほど不自然なふるまいでもないかと思うんですけど、二人とも同じく変態だっていうことですかね。

—ひじきさんはモノになりたいんですか。

「ひじき」であればうれしいかな。エリナ女王様の奴隷の「ひじき」であればうれしい。奴隷っていうのが人間なのか、動物なのか、モノなのか、極論どうでもよくって、エリナ女王様の奴隷の「ひじき」でいられたらうれしい。「ひじき」を使ってSMすることが楽しいってなっていたらうれしいんです。

家具になったり、椅子になったり、はっきりと何かモノになることを求められたことはありませんでした。エリナ女王様に座られたことはあったけど、もしかしたら自分の座り心地があまりよくなかったのかもしれないし、自分には別の機能を求められていたと思います。僕も何かモノになりたいという気持ちはありません。エリナ女王様次第です。エリナ女王様にとって役に立つ機能を提供できるモノになりたいんです。今回のインタビューも、エリナ女王様に命令されてうれしかったんです。

—今ここで話に来ているのも、命令を受けて来ているとしたら、自分が役に立つかどうかということは重要なんでしょうか。

そうですね。それがプレッシャーでもあるんですけど、やっぱりうれしいです。ひとつ僕がこういう機会をいただけてうれしかったのが、エリナ女王様としていたことがちゃんとSMだったということ。「SMクラブにお金払って鞭打たれているんだからMに決まってるじゃん」って言われたらそこまでなんですけど、エリナ女王様から見てちゃんと自分はMだった、だからマゾヒストの実体験として自分のことを話す人として、自分のことをお話してい

ただけた。じゃあ、M 男性の具体例として自分があげられたということは、自分はエリナ女王様にとってちゃんと M 奴隷でいられたんだ、あ、よかったと思ったのがあります。

—インタビューについて、エリナ女王様が連絡をくださいました。「役に立つか気になる」ということを言われていました。「一生懸命話したかとかどうかはどうでもいいから、役に立ったかを教えてほしい」というようなことを言われていました。この話はどういうふうを受け止めますか。

すごくドキドキしています。うれしいというドキドキと、ちゃんと役に立たないといけないというプレッシャーのドキドキと、あっ、エリナ女王様のお言葉だって思うドキドキといういろいろあって、整理しきれないところがあるんですけども。自分のモノというか、自分の管理下にあるモノだからちゃんと働いたかどうか気になるというニュアンスだろうと思うので、そういう意味ではエリナ女王様の管理下に置いてもらえたっていうのが、すごく幸せです。一般的にお話を聞かせてくださったお客様という扱いをされてしまうと、すごく寂しかったと思います。女王様でおられると思ったので、女王様の奴隷でいさせていただけのならばすごく幸せなことですし、うれしいお話を聞かせていただけたと思います。

—それとは別のときに、ひじきさんのことを「あいつはモノだから」っておっしゃっていました。

「インタビューに答える道具として今回は使うよ」って言われたのだと思うので、今回はその役割をまっとうすることだと思います。エリナ女王様もご自分の奴隷ではない M 男性や M 女性に対して、もし今回の企画のようにインタビューされるようになったら、やっぱりちょっと違う対応だったと思うんです。相手に敬意を払った言い方をされたと思うんですね。そうではなくて、自分の道具なんだから、自分の道具に対するふるまいとして自然でしょということだと思うんです。「辞書」貸してあげた。きれいに印刷されていたよ、いやそんなことどうでもいい、調べたいことが載っていたかっていうことと多分いっしょなんだと思います。それは自分の「辞書」なんだから、自分の価値観で扱いを決めるよ、丁寧に扱うか、雑に扱うかは、もう持ち主次第ということなのかな。とりあえず今回はちゃんとお話する道具、だから役に立たないといけないよということだと思います。「辞書」だったら乱調がなかったか、ページが破れていなかったかということだと思います。女王様がモノだとおっしゃったのであれば、モノだということだと思います。それでよかったと思います。シンプルに女王様の口から自分の名前が出たっていうだけでうれしいです。モノとして扱っていただける、今でも SM の関係のなかに置いていただけているっていうのがうれしいです。自分をプロの S から見た M だって認めていただいたという言い方はちょっとおこがましいかもしれないんですけど、M として話していいよっていう許可をいただけたって

うのは、ちゃんと SM ができた、マゾヒストだって認めていただけたっていうことかなと思っ  
てうれしく思っています。

—雑に扱われてもいいということなんでしょうか。それとも、雑に扱われれば扱われるほど  
いいということですか。

ひじきっていう道具を雑に扱うことが気持ちいいのであれば、それでいいです。本当は大事  
にしてあげたいのに下手くそだから雑に扱わざるを得ないっているのだったらがんばらな  
きゃいけないと思いますけど、「雑に扱うよ、それでもよかったら勝手についてきな」って  
いうことだったら、「勝手についてきな」っていうのも変かもしれないですね。「いやモノな  
んだから、雑か丁寧  
に扱うかはおまえじゃないよね、もしかしたらふと気が変わってていね  
いにあつかう時期が来るかもしれないけど、ただそれはこっちが丁寧  
に扱ってくださ  
いって言うから丁寧  
に扱うんじゃないよ」ってということかなと思います。

一般的に考えたら優しくしてもらえることが、大事に扱ってもらえる方が幸せじゃない  
って言われたら確かにその通りですね。それはわかります。でも、なぜかわからないけど、エ  
リナ女王様に道具として認めていただけことがすごくうれしいんです。それはマゾヒス  
トだからだと思います、ということ以上の答えがなかなかうまく自分でも表現できないか  
なと思うんです。

## 捨てられた野良奴隷

—ひじきさんはもうかなり長いことエリナ女王様にお会いされていないんですよね。最後  
に SM プレイされたのも、相当前ですよ。

エリナ女王様と最後にお店で SM プレイをしたのは、10 年以上前です。最後のプレイをす  
る直前に、エリナ女王様から「話がある」と言われ「今日が最後」だと告げられました。こ  
の退店は、エリナ女王様が望まれていたことが叶ったためにお店を続けられなくなったと  
いう理由によるものでした。ショックでないわけではないけど、自分に前もって教えてほし  
かったとか、嫌な気持ちになるということはありませんでした。ただ、女王様が望んでおら  
れる通りになったことが理由となり退店されるのであれば、それはいいことだと思いま  
した。退店するということも、エリナ女王様がお選びになられたことであるなら、それを理由  
にプレイができなくなってもいいことなんです。こういう女王様であるからお慕いする  
というよりも、エリナ女王様がそうでありたいようにあられることこそが大事なことなん  
です。

一番最後のプレイのときにおっしゃったのが、「最後ぐらい優しくしてあげようと思ったけど、いつも通りでいいわね」とおっしゃったんですね。その場ですぐにさっきの射精のあとの申し訳なさにつながったわけではないんですけど、しばらく通ってくれてほしいお客さんだから、最後くらい気持ちいいことして帰してあげようとか、ちょっとサービスしてあげようっていうのもあるかなって思うんですね。女王様側の考えとしてもあると思うし、お客さん側としても、「最後ぐらいちょっといいじゃん」みたいなものがあるかなと思うんですけど、そうではなくて普段通りにしていただけるっていうのがすごくうれしかったんですね。なんていうか、自分は女王様に楽しいって思ってほしい、自分とSMした時間が楽しかったり、満足していただけるのがうれしいので、最後だからサービスしてほしいとか思っていないということが通じてたなら、すごくうれしいなというふうに思います。

—エリナ女王様はお店をやめるとき、お店をやめるから、もう奴隷はいらなくなった状態だったというようなことを言われていました。そのとき、ひじきさんは捨てられて「野良奴隷」になったんですね。

もうおっしゃる通りというか。エリナ女王様との関係では、自分はモノであるので。ペットボトルにジュースが残っていても、いらないから捨てましたっていうのと同じだと思います。「僕まだ残っているよ」と思っているけど、関係ないということだと思います。でも、女王様が退店されたあとも忘れられなかったです。インターネットを検索したり、心当たりを探したりして、エリナ女王様の姿を追っていました。

しばらくして、職場で出会った女性と交際して、結婚することになりました。結婚する前、エリナ女王様を忘れられない状態だったことや、相手に対するぼんやりとした不満があって、そのことをエリナ女王様と集団調教に参加したときにお会いした女王様にお話しに行っていたことがあります。そのときはSMプレイではなくて、ただ「エリナ女王様にお仕えしていたひじきである」と伝えて、エリナ女王様が忘れられない気持ちを聞いていただきました。エリナ女王様のことが好きだという気持ちをどこかで吐き出したかったということがあったんだと思います。そのとき抱えていた不満だったり、不安だったり、あとエリナ女王様とのプレイが本当に楽しかったんだ、あのときすごく充実していたんだっていうことを、自分のなかだけでは消化しきれなくなったのかな。誰かに聞いてほしい。SMのこともお話しできるということであれば、その女王様かなって思いました。その方が、エリナ女王様が勧めてくださった女王様であったことも大きかったです。

そのあと、エリナ女王様のいる場所にこっそりと忍び込んで、エリナ女王様に発見される形でお会いしたことが一度だけありました。そのときに、エリナ女王様は自分が結婚予定であることを知ってくださっていました。すごくうれしかったです。話を聞いてくださった女王様が1回来ただけの客のことをどこまで考えていたかはわからないけど、結果として自分にとってものすごくうれしくなるような対応をしてくださったことがうれしかったん

です。女王様ってそういうことができる人なのかな。もちろんみんながそうというわけではなくて、その女王様は接客としてそれだけのキャリアを積んでいらっしゃるということなんだろうと思います。その方はすごい方だなと思いました。それが、エリナ女王様にリアルでお会いした最後です。

そのあと妻と結婚しました。妻は職場のバイトとして働きに来た人で、彼女から見ると僕は職場の責任者なので、しっかりとした人、ちゃんとした人、教えてくれる人であって、自分がマゾヒスト的に振る舞うことからスタートしたわけではないから、今もそういう関係が続いています。SM プレイもしていないし、妻に過去の SM プレイについて話すつもりもありません。エリナ女王様が忘れられないことについては、妻には申し訳ないと思うけど、そういうものを引きずりながら、父として夫として普通に接しています。妻には秘密を持っているわけですけど、秘密をもっているのが気持ちいいってということもあるんです。でも、今回こうしてお話させていただく機会をもって、秘密をもつのも気持ちいいんだけど、秘密をばらすのも気持ちいいんだなって思いました。もしかしたら、一番気持ちいいのは秘密をばらしているタイミングかもしれないと今回思いましたね。それを妻ではなく、先生だったら、自分の素性がわからないように聞いていただけて、そのなかで踏み込んでお話を聞いていただけてそういう意味でもいい機会をいただけたなと思います。

—ずっとエリナ女王様を忘れられなかったんですね。エリナ女王様の居場所を突き止められたってことは、そうとう調べられたということですよ。

そうですね、女王様がお店をやめられて、ちょっと寂しかった部分はどうしてもありました。だから、いろいろ調べました。インターネットで検索しようが、何をしようが、自分がやることは女王様には届かないですよ。ご迷惑おかけしないという言い方が正しいかどうかわからないですけども、何か女王様に干渉するわけじゃないところで、自分の寂しさを埋めたりとか、思い出を反芻するような行為をしたりすることで、寂しさをなんとか消化しようとしたのかなというところだと思います。

相手によっては、というか女王様が許さなければ、ストーカーじみたことをしているので危険ではあったなと思います。本来お店の女王様のプライベートを探るということはやるべきではなかったと思います。そういう意味では、ただの従順な奴隷ということではなかったのかな。エゴというか。今まで散々自分はいいいんです、楽しんでいただけたらいいんですっていう話をしていたのとはちょっとズレてくるかな。自分はいいいんですっていうのも願望だったのかな、そうありたいとどこかで思っていて、でも今、そうじゃないよね、自分のことをかわいがってほしいと思っているよね、もっと尽させてほしいと思っているよね、時間でもお金でも自分の身体でも使って「こいつと SM するの楽しい」って思ってもらわなくちゃダメなんじゃないって思っていたのかもしれないです。

—そういえば、エリナ女王様が、野良奴隷であった期間、どういう心づもりでいたのか聞

きたいと言われていましたよ。いくらひじきさんが奴隷であったとしても、日常生活もあるし、常にエリナ女王様の奴隷であれたとはなかなか思えないと。10年のあいだ、どんな野良奴隷だったんですか。

一方的に思いを募らせていたのが続いていたのかなと思います。ごく普通の生活のなかで、思い出したり、DVDを拝見したり、ほかの女王様のブログでお写真を拝見したり、以前お店にいたときにブログに書いていた内容からいろいろ探ったりしてしまいました。調べた。エリナ女王様を考えない日はなかった。調べたりしていないときも、ただ漠然と楽しかったな、幸せだったなって思っていました。

—ずっと女王様のことを思っているにせよ、会わない期間が長くなってくると、記憶がぼんやりしてきたり、気持ちが小さくなったりしないんですか。

女王様の存在はずっと変わらず大きいです。プレイできていた時期も、お会いできていたのがたかだか月に1回、2回くらいのことなので、基本的に会えないことが普通でした。連絡先を知ってはいても、こちらからそんなにやり取りをするわけではなくて、基本的にはいただいた連絡にお返事をするってような感じにしていたので、こちらから手の届かない存在っていうのは大きく変わっていません。寂しさもあるんだけど、変わっていないというか、諦めがついている部分というか。前から別に友達だったわけでもないし、恋人だったわけでもないっていうことで、楽しい夢を見させてもらっていたのかなみたいなのところもありました。そういう意味では、会えない、プレイができない、コンタクトが取れないからって、自分の記憶が薄れていってしまう部分とかあると思うんですけども、存在感というか「楽しかったな。素敵な時間過ごせたな」っていうのは変わらなかったのかなというふうには思います。

—手が届かないというのはどういう感じですか。

連絡先を知っていても、こっちからアプローチをする存在ではないということですかね。お客さんとして会いに行っているんで、望めばお金を払った相応のサービスを受けることはできたと思うんです。それこそ追加の料金を払えば、バストを見せていただくことができたろうし、セックスの形でなくても性器に触れるようなプレイもできたかもしれないんですけども、それを望んでいなかったというのもあるんですけども、できるけどしていいことじゃないみたいな、そういうことですかね。たとえばですけど、神社の鳥居があったとして、そこにおしっこすることはできるんですけど、それはしていいことじゃないよね、みたいなところかもしれません。手が届かないっていうのは、モラルみたいなところかもしれないですね。

—そのモラルっていうものは、野良奴隷になる前と後で変化しましたか。ほとんどいっしょですか。

そうですね、そんなには変わらなかったのかなと思います。もうプレイをしないからといって、たとえば、呼び捨てにはできないです。インターネット上のお店の掲示板とかでは、女王様の悪口なんかも見つかることがあるんですね。それを捕まえて正すようなことまではしないですけど、自分もそういうことをするかって言ったらそうではなかったなというところなんです。やっぱり急にやめられたので、やめ方が良くないっていうことが書いてありました。匿名の掲示板なので言いたいように言うんだと思うんです。彼もたぶんそういうふうになっているってことは、プレイできる期間それなりに愛情というか女王様を慕う気持ちがあったんだと思うんです。裏切られたっていう気持ちの裏返しなのかな、仲間なのかなとも思います。でも、そういうことは言わない方がいいと思うよと思ったり。

僕は女王様がお店をやめたことを、ひどいことだとは思いませんでした。シンプルにそういう線引きをするタイミングが来て、女王様の方から理由もおっしゃっていただいて、幸いそれをうかがう時間もあってというところで、ちょうどよかったというふうにある程度は受け止めました。それと寂しさとが両立してるんですけども、寂しい気持ちがあるからといって「こんな寂しい気持ちにさせたあの女王様はひどい人だ」とは別に思わない。上手にお別れをしていただいたかなというふうには思ったというところかなと思います。

## 野良奴隷から奴隷へ

—10年後、エリナ女王様からメールで連絡があったときはどんな気持ちでしたか。「奴隷に戻してあげる」と言われたんですよね。エリナ女王様は、別に接触をもつわけではないけれど、心構えとして、ひじきさんは野良奴隷ではなくなったということだとおっしゃっていました。そのメールのやりとりについてどう感じましたか。

うれしかった。それだけです。何かしらそうなる事情が、心変わりされる事情がおりになったのかもしれないですけど、そこはもう自分の関与することではないので、エリナ女王様からそうおっしゃっていただけたということが何よりです。そのメールを見ると幸せだなと思います。メールをいただいたとき、そんなこと期待もしていなかったんで、本当にうれしかったのと、何かあるのかなど。宝くじに当たったら本当かなって疑うと思うんですよね。素直にシンプルにやったーって思うよりも、本当かなって思ってしまうのといっしょで、見間違いかな、本当にそう書いてあるのかなって。信じられないくらいの幸福だなんて思っています。

—ひじきさんはプライベート SM の奴隷になられたということでしょうか。

今の関係は、お店にいたエリナ女王様の延長線上にあるので、完全なプライベートの SM だとは思わないです。お店をやめてなお、そういうふうに扱っていただけるというのは、ありがたい話だなと思います。ファンタジーに片足突っ込んだのかなと思います。

—それにしても、ひじきさんのエリナ女王様への忠誠心は疑う余地なく感じられるほどのものですよね。最近は「推し活」がはやっていますが、アイドルを推すことと、女王様に従属することには、違いがあるんでしょうか。

近いところはきっとあると思います。ファンもひとつの機能になっているのかなと思います。たとえば、グッズを買うという機能だったり、人気投票で投票するっていう機能だったり、それが結果として現われて、推してるアイドルがセンターになりましたとかっていう成果を見て、その成果を彼女が喜んでいるのであれば、ファンとしての自分はうれしいというところもきっとあったりするのかなとは思いますが、ファンとまでは言えないと思います。似たようなところもあるし、でもちょっと違うところもきっとあって。でも、それはアイドルのファンのなかでもそれぞれ違いがあるし、マゾヒストのなかでもそれぞれ違いがあるし。違うところがあるとしたら、アイドルのファンは自分の思うアイドル像をその人に演じてもらいたい。だから今このタイミングで結婚したらやだとか、こんな役をドラマでやってほしくないとかあるかもしれないですね。でも、僕はエリナ女王様が結婚されるとか、出産されるとか、それをエリナ女王様がお選びになられたことであるのなら、それを理由にプレイできなかったとしてもいいことだと思います。そういうところは違うのかな。自分の思うようになってほしいというのがファンなのかなって思います。どんな風になっても私はついていきますっていうファンの方もいると思うんですけど、「こういう子でいてくれると思ったから自分は応援したのに、男とつきあいやがって」ってファンならなりかねないのかなって思います。

—エリナ女王様に対する気持ちは、無条件のものということでしょうか。

どこまでも本当に無条件なのか、それが実践できるのかっていったらなかなか難しいところもあるかと思います。「社会的におまえを存在できなくしたいんだ、だから裸の写真ばらまくよ、いいよね？」とかって。だからそういうのが好きな女王様じゃなくてよかったかなとは思いますが。可能性がきっとあったんだと思います。どこかで「いや、それはマズイ」ってなったかもしれないですし、「いや、それを本当に喜んでいただけるんならば、別にい

いんじゃないの」ってなったかもしれないし、世の中にはもしかしたらそういうふうになった人もいるのかなと思ったりします。

—もしエリナ女王様が「私はおまえを社会的に抹殺したいから、おまえの裸の写真をばらまくことを望んでいる」と言われたらどうしますか。

可能性は低いとは思いますが。「いや、それは勘弁してください」という可能性は高かったと思うんですけど、ぽんっと頭のネジがゆるんじゃう瞬間ってあると思うんで、それが調教の成果という言い方が正しいかどうかかわからないんですけど、調教によってそうなってしまっていた可能性はあるかもしれないなとは思っています。「喜んでほしいって言ったじゃん」と言われたときに、どう断っていいかわからなくなったかもしれない。本当にそんなできもしないことをできるって言っているってことになりかねないと思うんですけど、ゼロではなかったと思います。ほんとうに極わずか、ほぼゼロだとは思いますが。

それまでのたとえば調教の度合いだったり、そうおっしゃったときのエリナ様の状況だったり自分の心持ちがどういう状況だったかによってはあり得たかもしれない。たとえば、身内が全員死んじゃった、親しい友人もいません、仕事のつきあいくらいですっていう状況と、エリナ女王様の歓びとどっちをとるんだとなったときに、もしかしたらエリナ女王様のほうに傾いて、裸の写真だろうが、その辺、裸でうろつこうがした可能性がゼロではないかなと思います。

あの、相当低いし、たぶんやらなかったと思うんですけど、ないことを証明できないかなみたいなのところなんです。ネジがはずれなかったということが、もしかしたらお店の女王様でいらっしゃったということなのかな、と思います。僕が社会的に抹殺されることがなかったのは、お店の女王様との関係だったからってということになるかなと思います。

## 【対談から 4 年後】

### 奴隷のモラル

—2021 年にインタビューをしてから 4 年ほどが経過しました。ひじきさんは野良奴隷からエリナ女王様の奴隷に戻られたわけですが、現在もエリナ女王様に会える関係ではないんですね。今回のようなインタビューを間接的に命令されることはあるけれど、基本的には直接的には会えないし、エリナ女王様から呼び出されたり、話しかけられたりすることはない。けれど、女王様と奴隷の関係であるとうかがっています。そんななか、一度、ひじきさんはエリナ女王様に会いに行かれたんですね。

はい、エリナ女王様が来られることがわかっている場所に、一度お邪魔したことがあります

た。奴隷に戻していただけたということもあって、「いいんじゃないかな」という甘えの部分があったのは確かですね。とってこちから「いついつにお邪魔させていただきます」というような声のかけ方をするのも違うだろうというところでした。もしお会いしてお叱りを受けたらもう仕方ないというような気持ちと、甘えと両方あるような感じで、お邪魔させていただいたというところですね。

—その行動は以前お話しされていた奴隷としてのモラルには反さないんですか。野良奴隷のときに会いに行かれたことも、特にモラルとは関係ないということでしょうか。

ダメだとは思いますが。検索をすとか本名を知るとかっていうのは、こっちがどんなに知ったところで外に出さなければ女王様に影響を与えないことだと思うんです。この認識が正しいかどうかというのはわからないですけども、自分のなかだけでぐるぐる繰り返していることなら、まあいいんじゃないかなと。ただ会いに行ってしまう、会うつもりがなかったにしても見つかってしまう、お声をかけていただく。もしかしたら見かけた時点で嫌な思いをされるかもしれなかった。自分がまだ女王様のことを追いかけているっていうのが、少なくともわかってしまう。お店をやめられた SM クラブの女性としては、たぶんとても気持ちの悪いことだとは思っているので、よくなかったとは思っています。

ただ、我慢していただけたのかもしれないですけども、女王様に許していただけた、その行為を特に咎めるとかいうことがなかったということに関しては、女王様のなかで問題とされるような行為ではなかったのかなというふうに思っています。これも本当にご厚意に甘えてるだけかもしれないんですけども。

—今の女王様との関わり方ってどういう感じですか。野良奴隷のときと変わったことはあるんでしょうか。

奴隷に戻していただけたので、インターネットを通じて、お誕生日のお祝いとか、プレゼントとかをさせていただいています。そこは野良奴隷のときから変わったことかなと思います。でも、奴隷に戻していただいたことはすごく大きなことなんですけど、基本的にはあまり変わっていないかなと思います。もともと手の届く存在だったわけではないので。野良奴隷になったときは、エリナ女王様からも別に手を伸ばさないというか、勝手にどうぞの存在だったのが、「ちゃんと手の届くところにいなさいね」みたいな感じになったのかなという心持ちはあります。でも、そこまで変わっていないと思います。

野良奴隷のときも今も、女王様の行動にゆかりがある場所に行かせてもらうことがあります。女王様をご覧になられたものを見て、女王様がどういうことを思っているのかを考えたりするんです。すると、ときどき、声が聞こえるような気がするんです。こういう声でこういうことをおっしゃるんじゃないかなとか、こういう言い回しをされるんじゃない

いかなみみたいなのがなんかぼんやりうれしかったりとか。同じものを見たっていう、経験を共有したみたいなのがうれしい。聖地巡礼みたいなことかもしれないです。

そういうことをしているときは、普段の自分じゃなくて、奴隷のひじきとして行動しているというように。自分のなかに明確なスイッチがあって、「よし、奴隷のひじきになったぞ」みたいなことがあるわけじゃないんですけど、普段の僕を知っている同僚だったり、家族だったりとはちょっと違うところが出るんじゃないかなと思うんです。自分のことはあんまり自分でももしかしたらわかってないかもしれないんで、普段からそういうところあるよって言われたらそうなるかもしれないですけど、自分としては、普通のおじさんと、「ああ、そんな行動をするんだね」みたいなひじき。どっちかというと普段は出不精なタイプなので、それが「わざわざ出かけてそういうことするんだね」という。そういう意味ではエリナ女王様のことについては、ちょっと変わるというか、そこに割ける行動力みたいなのは別でもっているのかなみみたいなことはあります。

あと、これは野良奴隷のときからのことなんですけれど、SNS ではエリナ女王様との思い出をくり返し呟いています。他の女王様にエリナ女王様への気持ちを吐き出したっていうのもそうなんですけども、エリナ女王様っていうすばらしい女王様がいて、プレイできてともうれしかったですっていうお話をしたことも、すごくうれしかったんですね。自分が「ひじき」と呼ばれていることっていうのも、ほとんどの方はご存知ないことですし。ご迷惑をおかけしない範囲で「SM 楽しかった」という発信というほどではないですけども、以前別の女王様にお話しさせていただいたのと似たような感覚で楽しくなれたらいいかなというふうなつもりでやっていました。でも、下心みみたいなのもきっといくらかはあるんだと思います。女王様に見ていただけたらうれしいな。「なんか言っとんな」って思ってくださいだけでもうれしいなっていう気持ちはあります。ただ、女王様に「返事ください」というつもりではないようには呟いているつもりではあります。

—それは実在のエリナ女王様っていう人に語りかけているんですか。それとも概念化したような女王様に語りかけているんですか。

あーそうかもしれないですね。「とっても素敵女王様」という方に関して呟いてるみたいなどころもあるのかなと思います。もちろん想定しているのはエリナ様なんですけど、もしかしてその呟きを見ている人にとっては別の女王様を慕ってる人がいて、その人に「僕も女王様に対してこういう気持ちをもっている。この人が好きって言ってるのと似たようなプレイ、そういえばあったな」って思ってもらってもうれしいし、女性の方に「あー、Mの人ってこういうこと思うんだな」と思ってもらってもうれしいしというようなところなんです。反応があるような呟きっていうのはほとんどないんですけども、どこかで誰かがぼんやりそう思ってくれたら十分かなと。自分としては、まずは外に出す場を作れたっていう役割はある程度果たしているかなと思うので、もう本当に自己満足のアカウントですね。

## マゾヒストとSMプレイ

—奴隷に戻ったといえども、ひじきさんは15年ほどエリナ女王様とSMプレイをしていないですね。客観的にはSMクラブでプレイをしていたときと今とではかなり違うように思われるんじゃないでしょうか。

エリナ様がプレイを求めておられないので、僕も求めないというところですかね。僕がプレイをしたくないわけではなくて、エリナ様がSMをしたいとおっしゃるタイミングにSMができればいいなというようなことはあるんですけど、望んでおられないので。メールで奴隷に戻していただいたときも「SMプレイはできないよ」って断言してくださっていました。エリナ女王様とのプレイができるできないというのはあまり大事ではないという言い方は変なんですけど、だからエリナ様の価値が上下する、プレイができる女王様だから価値があるとか、そうじゃないから価値がないということではないかなと思います。あとは家族がいるので、以前のように鞭の跡がついたりするわけにはいかないということもあります。求められるようなプレイはできないだろうから、そういう意味でもプレイをできないことについては、女王様が望んでおられない以上はそこまで大事なことはないという言い方はSMの話をして変なんですけど、そう思っています。

もちろん、エリナ女王様は、SMプレイをしたくてSMクラブにお邪魔したときにお会いした女王様ではあります。たぶん、自発的に「僕のSMがしたい」というのは、最初の一回だけだったと思うんです。二回目からは、エリナ女王様がしたいことをしたかった。なので、今のエリナ女王様はプレイを求めておられないので、じゃあプレイの必要はないというところかなと思います。

—SMプレイをしない奴隷、マゾヒストってどういう存在なんですか。ひじきさんのエリナ女王様に対してのあり方は、マゾヒストと言えるものなんですか。

プレイをしていた期間でも、鞭を打ったり、蝋燭を垂らしたり、縛ったりっていう、いかにもSMプレイっていう感じじゃないことをやってはいるんですね。お買い物に行ったり、将棋みたいなゲームもいっしょにしたり。サディストの女性がいらっちゃって、その方が楽しいと思うことをしてるなら、別にそれはプレイみたいなもんだというか、そこに関わるのはマゾヒストの行動とも言えるんじゃないかなと思います。最終、鞭に打たれたいわけではなかったんだと思うんです。鞭がお好きな女王様。僕を鞭打つことを楽しいと思ってくさっているっていうところが大事というか、そういう鞭が好きなんであって、鞭を打ってくれるから好きです、縛ってくれるから好きですっていうことではありませんでした。最終的に

は、たとえばエリナ女王様が「別に私はサディストではないんです。そういう役割を求められてたので上手に演じてたでしょ？」っておっしゃったとして「それでもいいです」っていうところですかね。

普通、それで喜ばないよね、辛い状況というか、辛いという言い方が正しいかどうかかわからないですけど、報われないような状況でも、それでもこの人にお仕えすることで喜びを感じているっていうのは、マゾヒスト的なんじゃないかなと思います。

—ところで、エリナ女王様が「肉体的な SM プレイをしたいと思わないのか」ということを聞かれていました。

したくないわけでもないんですけど。今回こういうお話の機会もあって、SM の空気感みたいなのはやっぱり自分にとってすごく快適というか、楽しい空間なんだなと思いました。普段の職場とか家族とは共有しにくい空気感、経験だったりするので、どこか別で見つけなきゃいけないなというふうに思いました。

エリナ女王様と最後のプレイをして以降、風俗店に行ってプレイをするということはなかったんですけど、去年くらいから SM バーで開催された SM イベントにお邪魔して SM の話をしたり、少しプレイみたいなのとか、プレイなんだと思うんですけど、SM をしてみたりということはありません。SNS でやり取りをした S 女性の方が、「今度こういうお店でイベントをやります」ってお声がけくださったので、お邪魔させていただきました。SM バーでは「今、鞭の練習しているんだ。打つ練習しているから打ってみたい」って言われたら、「どうぞ」ということで、跡にならないように服の上から軽く当てるみたいなプレイをやりました。ちょっとハード目なのだと金蹴りのイベントがあって、女性に何発か蹴ってもらったっていうようなこともあります。それが「女王様の許可なし」ということなんで、大変よろしくないのかもしれないんですけども、そういうことはあります。

野良奴隷になってからエリナ女王様のところに行ってしまったのといっしょで、だんだん我慢ができなくなるところはあったのかなと思います。エリナ女王様に会いに行ったけどお許しくださった。そういうのといっしょで甘えているんだと思います。この話は内緒にしたかったという気持ちもあると言えば正直あります。でも、このインタビューではちゃんと聞かれたことをお話しするという役目を求められていると思っているので、お話をしました。奴隷のモラルとしてはよくなかったとは思いますが、SM に触れていたいっていう欲があったり、SNS 上で知り合った方と楽しくやり取りできてたので「プレイ関連はもう触れないでください」っていうのもちょっと違うかなと思ったりしました。その辺も本当にこっちの都合というか、勝手に言ってるだけなんでお叱りを受けても仕方ないかなとは思ってはいません。

これも本当に自分本意の話だと思うんですけども、社会にいる僕と、SM が好きな僕っていうのがあったとして、SM が好きな僕のなかに、エリナ女王様との SM と、いわゆるボンテ

ージファッションだとか男性を責めてくれる女性が好きっていう SM と両方あるような感じですよ。SM がしたいっていう気持ちが強くなって SNS 上のやり取りを試してみたり、実際にサロンに行ってプレイを試してみたりっていう形で一方が表に出ることと、反面、エリナ女王様との思い出をずっと自分なりに大事にしている自分があるっていうのが、自分のなかで矛盾していないんです。

女王様のなかには、勝手にどうぞとおっしゃるタイプの方もいらっしゃるでしょうし、きっちり管理したいという方もいらっしゃると思います。いずれにしても、それは奴隷が決めることではないです。サディスト側の方がどう管理するかは決められることなので、そういう意味では逸脱した行為だったのかもしれないと思います。結婚をして、子どもが生まれて、子どもに自閉症と知的障害とがあってというような環境もあって、必ずしも家族間がうまくいっていなかった状態のなかでイライラしている自分がいて、それを発散する術として SM イベントに行きました。家族の存在を忘れて没頭できる好きなことってなんだったときに、SM 関連のもので金蹴りイベントにお邪魔して、蹴っていただいたっていう感じですね。

それがきっかけになって、妻に自分の性癖を話すことにもなりました。見つかってしまうというよりは、腫れていてバレてしまうので、相手から聞かれる前にこちらから話したというところですよ。エリナ女王様のこととかは伏せてはいるんですけども、「実は、どうしても気持ちがむしゃくしゃしている部分があって、そういうイベントに行ってきた。自分にはいわゆる M という性癖があるんだよ、わかってくれたらうれしい」と言いました。彼女の方も、もちろんそれを喜ぶわけではないんですけども「わかった。そういう心配になるようなことはしないでほしい。夫婦間でのセックスでも、ちょっとじゃあそういうふうな要素もできる範囲でやってみる」みたいなことにはなったんです。本当に求めているような SM プレイということではないんですけども、そこでお互いの不満を話し合っていたん気持ち的には落ち着いたみたいなどころだったかなというふうに思います。

—SNS で知り合われた方とエリナ女王様って全然違う存在ですか。それともどこかちょっと面影を求めているところはあるですか。

違うかなというふうには思います。もしエリナ女王様とプレイをするなら、やっぱり目一杯したいというところがあります。最近 SM プレイをする機会があった方だと「ごめんなさい、僕ちょっと跡が残るプレイはダメです」って言って「わかりました」っていう感じですよ。SM プレイと SM ごっこ。同じものかもしれないんですけど、やっぱり本気かどうかの違いかなと思います。

—たとえば今、エリナ女王様が「思いっきり鞭の跡をつけたい」って言われたらどうしますか。

はい、ちょうだいします。

—それを受けて、家族に「これどうしたの？」って聞かれても大丈夫なんですか。

たぶん大丈夫ではないとは思いますが、今、浮気をしているみたいな状態で、エリナ女王様以外の女性ともそういう場でプレイの機会をもっておいて何を今さら奴隷面をしてというようなお叱りを受けるかもというのはもう重々承知の上でのことなんですけれど、今回の答えがよくなって「じゃあもういらないよ」ってなっても仕方ないと思っはいるんですけど、それでもなお、エリナ女王様が打ちたい鞭というのがあるんであれば、いただきたいと思っいます。そこで断ったら、本当にもう最後というか、もう今後ないことだと思っうんですね。実際、その一発の鞭で最後になるかもしれないですけど、それを受けたらもしかしたらまだ奴隷として使っただけ、SMプレイの相手方として必要とされる機会もあったりするのかなと思っいます。

そうですね、今言っったことも嘘ではないと思っうんですけど、たぶん考えないかもしれないです。エリナ女王様が「打ちたい」って言われたらもう「はい」って言う。もし野良奴隷と奴隷の違いがあるんだとしたら、そういうところかもしれないです。「プレイをもうできないよ」とおっしやられて、お店をおやめになられた。その間、野良奴隷でいたけれど、ある日何かの都合で「ちょっとSMやらへん」って声をかけられたときと、そうではなくて、ちゃんとエリナ女王様発信で「おまえは私の奴隷だよ」って言われた状態で、「鞭を打ちたいよ」って言われるのとは違っうかもしれない。野良奴隷と奴隷の違いでいうと、そこがあるかもしれないです。

—もしエリナ女王様に「おまえにはSM欲があるのはわかっっているけど、奴隷としては私に仕えているんだから、私はプレイをしないけれど、別の女性とのSMプレイも我慢しなさい」って言われたらどうしますか。

はい、それは従っいます。

—モラルに反するなと思っいながら別の女性とSMプレイをしたのは、禁止されていないということが大きかったんですか。

そうですね。明確にはおっしやられていないからですね。

—じゃあ、断言されると結構厳っしい感じですか。

厳っしいとうれっしいの両方があるかもしれないですね。そこがマゾヒスト的なのかもしれない

いです。「もうするな」とおっしゃってくださるなら、それはそれでうれしい。「SM好きの同士として、今後がんばって」ということなら、それはそれでうれしい。「もう興味ありません」なら、それはそれで仕方がない、というようなところかなと思います。

あとは、最初にお話しをさせていただいたときには他の方と SM プレイはしていなかったんですけど、「あ、やっぱり自分は SM が好きだな。お話してとても楽しかったな」と思いました。エリナ女王様とのプレイの代わりについていうことではなくて、「SM がしたいな。SM が好きな人と SM を通じたコミュニケーションを取りたいな」という気持ちが強くなってきたというのは、野良奴隷から奴隷を経て、奴隷になった後の自分の変化としてあるのかなと思います。甘えた気持ちが出てきたみたいなことも変化のひとつかなと思います。やっぱりちょこちょこ甘えてしまいます。

4年前のインタビューでは、僕はある程度従順な奴隷という印象だったと思います。別にそれを装っていたつもりも全然なくて、そのときどきで正直にお話させていただいているつもりではあります。この間に別のプレイの機会をもったということは、ちょっと自分でお話しても整合性が取れていないというか、一貫してないように思うんです。なのでその点でご迷惑をかけしないかなという心配があります。すみません。でも、嘘はつかないように心がけたつもりです。

※プライバシー保護、および本文で十分に語られているため、ひじきさんのプロフィールは省略しました。

---

小西 真理子（こにし・まりこ）

1984 年生まれ。大阪大学大学院人文学研究科准教授。単著に『共依存の倫理 必要とされることを渴望する人びと』（晃洋書房 2017）、『歪な愛の倫理 〈第三者〉は暴力関係にどう応じるべきか』（筑摩書房 2023）、『共依存とケア ふるいかけられる声を聴く』（青土社 2025）がある。